

患難をこえて

武井しな子

「五百円の良い賜り物がありますように」祈りし翌朝足に激痛、階段ひと足毎に涙が出た。「主よお助け下さい」。娘に「病院へ」と頼み、例会欠席の電話。整形外科で変態性関節症といわれ、電気器具で温めマッサージをし散薬を頂いた。一人住まいだが二十四時間入れる風呂で感謝、医学書を見て温め足を動かした。娘に毎日車で送って貰ったが、そのうち杖についてバスで帰れるようになった。主にお癒しを祈りつつ「ハッ」と気づかされた。歩けることが「当然」だと思っていたのだ。「主よご覧ください、どうぞお許し下さい」。寒い間中主の祈りを唱えつつ三ヶ月位毎日通った。

ずいぶん昔のことだが長女が再婚。翌年四月三女が嫁ぎ、五月に長男が結婚した。夫は狭心症の発作以来頼ることはできず、すべて一人で対応した。その年の初夏に急に両眼が痛くなった。教会の青木姉にお願いし、ドイツの大学出身の眼科医の兄君から診て頂いた。「大丈夫です。必ず治ります」。感謝感激。主は常に愛にいます。ハレルヤ。